

短時間がん検診 早期発見後押し

子育て世代に罹患者が多い子宮頸がんや乳がんの早期発見につなげようと、聖隷予防検診センター（浜松市北区三方原町）は、一、二月、短時間で検診が終わる「ファースト・ママ検診」を行う。担当の諏訪香医師は「早く見つかれば、日常生活を大きく変えずに治療できる」と受診を呼び掛けている。

（飯田樹与）



マンモグラフィー検査の説明をする斎藤忍放射線技師（左）浜松市北区の聖隷予防検診センターで

同センターによると、子宮頸がんは三代後半、乳がんは四代後半でかかる割合が高い。しかし、この年代の女性は子育てで手がなかなか空かない。主婦は会社で健診を受ける機会もないため、こうした人々を対象に据えた。

ママ検診は通常の検診より三十分早い午後一時から、優先的にマンモグラフィーや乳房エコー検査、子宮頸がん検査などが受けられるため、通常より早く検査が済む。検査時間は子宮頸がんのみなら一時間、乳がんとセツ

1、2月 北区・聖隷予防センター

トなら一時間四十五分ほど。わが子が学校などにいる間に会計まで済むという。気兼ねなく受けてもらうため、スタッフは全員女性にした。

市健康増進課によると、二〇一六年度の乳がんの検診受診率は18・9%、子宮頸がんは14・9%。同センターでは、子宮頸がんの受診者が罹患のピークを過ぎた四十一・四十四歳で最も多いといい、企画に携わる斎藤忍放射線技師は「この検診をきっかけに、健康に関心を持ってほしい」と話した。

日程は子宮頸がん検診のみが一、二月の毎週水曜（一月三日除く）、乳がん検診とセツトが毎週月曜（一月一、八、十二月十二日除く）。予約制で一日五人まで。市の補助も併用できる。申し込みは、平日午前九時～午後四時半（土曜日は正午まで）、予約センター（フリーダイヤル（0122）0938375）へ。